

8. 口唇裂・口蓋裂の手術時期はいつなの？

- ・口唇裂一次手術は生後3～6ヶ月に行う
- ・手術時体重は5～5.5kg以上必要である。
- ・両側口唇裂は、1回で行う場合と2回に分けて行う場合がある
- ・口蓋裂一次手術は生後1歳～1歳半頃に行う
- ・口蓋裂一次手術には、一期法と二期法がある
- ・口唇裂二次修正手術は就学前か思春期に行う
- ・顎側部への骨移植は5～6歳から10歳頃に行う
- ・咽頭弁形成術は6歳以降に行う

口唇裂口蓋裂手術の主な目的は①口唇・外鼻を修正して形態を整えること、②口蓋部の閉鎖を行い、正常な音声言語機能を獲得させること、③歯の咬み合わせの異常を治し、うまく咬めるようにする

ことにあります。口唇裂と口蓋裂が合併した口唇口蓋裂では、1回の手術で全ての問題が解決されるのではなく、子どもの発育段階に応じた数回の手術が必要になります(図7-1)。

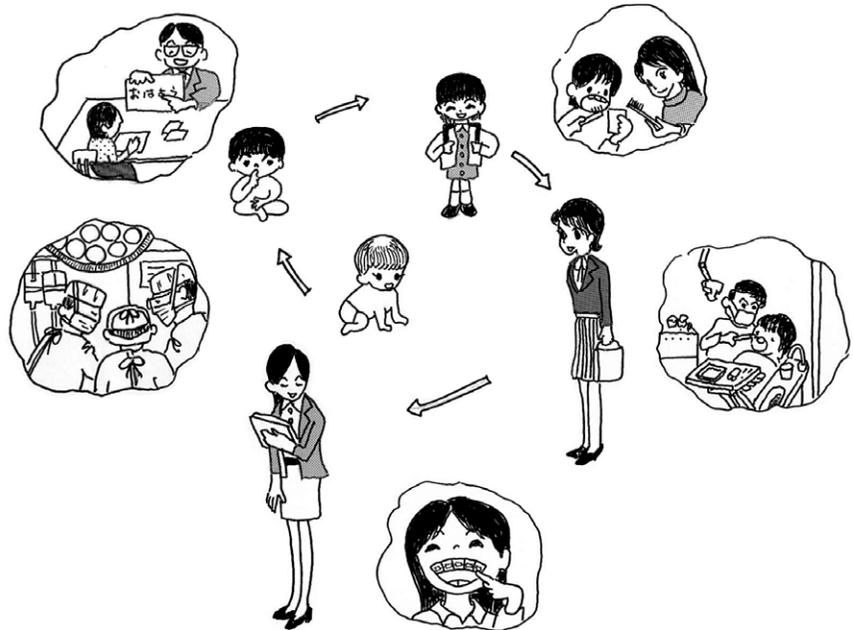


図7-1 口唇裂口蓋裂の治療は適切な成長時期に適切な治療をすることが必要です

1. 口唇裂一次手術の時期

一般的には片側口唇裂、両側口唇裂とも患児の全身状態が安定した生後3ヶ月、体重5～5.5kg以上の時点で手術が行われます。施設によって、口蓋裂を伴う口唇裂では手術前に上あごの位置や形を整えるために、ホッツ床やナム治療と呼ばれる装置を口腔内に装着することもあります。手術は、口唇を閉じることが主目的となりますが、同時に歯茎(はぐき)から上あご前方までの裂を閉じることもあります。両側口唇裂で、口唇中央部が前方に大きく突出している場合には、手術前にテープ等で中央唇を圧迫して、突出した上あごを押さえることもあり

ます。両側口唇裂では左右を同時に手術する場合と左右を2回に分けて手術をする場合があります。その場合は生後3ヶ月頃と5ヶ月頃に手術を行います。

2. 口蓋裂一次手術の時期

言語発達が良好で、口腔内に異常のない子どもであれば、1歳半を過ぎますと破裂音（パ、バ、タ、カ等）が頻繁に出始めます。この時期から口蓋裂手術の時期が大きく遅れますと、言語発達や音声言語機能に影響します。一方、乳児の上あごの骨は柔らかく、口蓋裂手術を早期に行くと上あごの発育に影響します。つまり、ひどい受け口になる場合もあります。言語機能とあごの発育との両面を考慮して口蓋裂一次手術の時期を決定しますが、1歳から1歳6ヶ月頃に前方の口蓋（硬口蓋）から後方の口蓋（軟口蓋）までを同時に閉鎖する手術（一期法）が一般的な治療法です。この一期法以外に上あごの発育を重要視する治療法も古くから行われてきました。これは二期法と呼ばれる方法で、主に裂が大きい症例に適用されますが、1歳半頃に軟口蓋を閉じ、上顎の成長発育が成人の約80%に達した4～5歳時に硬口蓋を閉鎖する方法です。しかし、この方法では音声言語機能面で問題が生じることから、最近は1歳時に軟口蓋を閉鎖し、1歳6ヶ月時に硬口蓋を閉鎖する早期二期法を行う施設もあります。

3. 口唇裂二次手術の時期

歯茎の裂（顎裂）や上あごの裂（口蓋裂）を伴う口唇裂では、外鼻の変形が著明で、生後3ヶ月頃に行う口唇裂一次手術で十分修正されないことがあります。そのような場合、鼻の軟骨組織がしっかりしてくる4～6歳頃に口唇裂鼻の修正手術を行うことがあります。しかし、鼻中隔軟骨の歪みを根本的に修正するといった大掛かりな鼻の修正手術は鼻軟骨の発育が完了する時期（18歳頃）まで待った方が良いでしょう。

4. 顎裂部骨移植術の時期

顎裂とは歯茎（はぐき）の部分の裂隙がある状態を言います。この部は口唇裂一次手術時あるいは口蓋裂一次手術時に粘膜や粘膜骨膜で閉鎖するのが一般的です。しかし、早期に顎裂部を閉鎖すると上あごの発育を抑えるという意見があり、乳幼児期にこの部の閉鎖を行わない施設もあります。一次手術時に粘膜で閉鎖しても顎裂部には骨がありませんので、この場所に歯を移動させることはできません。この骨欠損部に骨移植を行うのが一般的です。移植骨は本人の腰骨（腸骨）や下顎骨から採取します。顎裂部骨移植術によって、上あごの歯茎の連続性が得られ、骨を移植した所に歯を移動することが可能となります。手術は側切歯や犬歯が生える前に行います。おおむね5～6歳から10歳頃が至適時期です。また、この時期は歯の生えかわりの時期で、上あごの骨の活力が高く、移植骨の生着が良好と考えられています。

5. 咽頭弁形成術の時期

咽頭弁形成術は、口蓋裂一次手術後に語音発声時に鼻咽腔（軟口蓋と咽頭との空間）の閉鎖がうまく行われず、息が鼻から漏れて言語習得が困難な場合に行う手術です。手術は、咽頭の後壁から筋肉粘膜弁を起こして軟口蓋と縫合します。この操作で軟口蓋と咽頭の隙間が狭くな

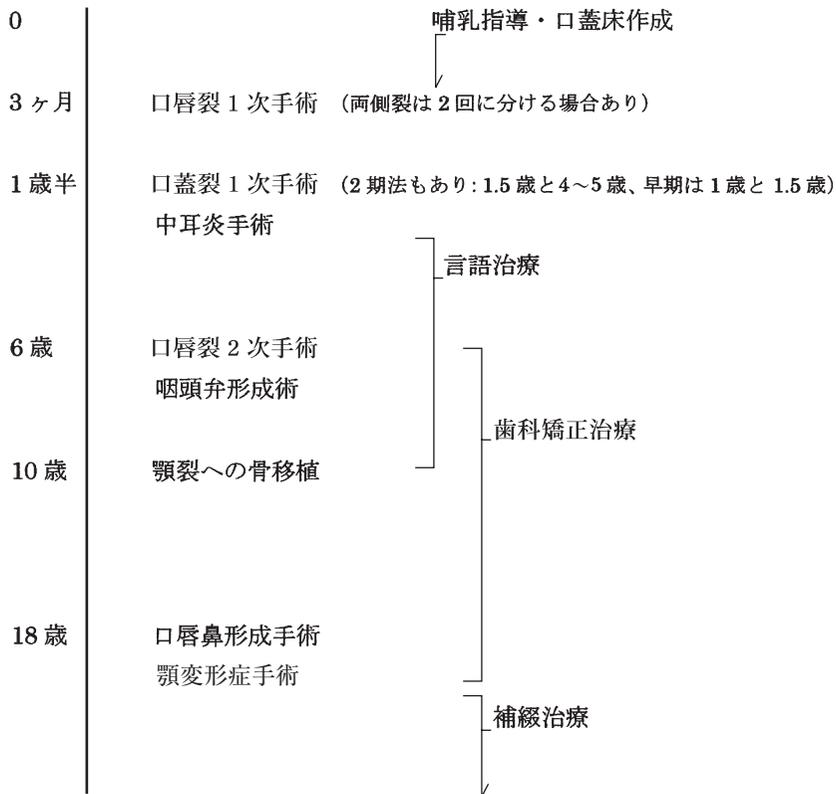


図 7-2 手術・治療の時期

り息が鼻に漏れなくなります。しかし、3, 4歳頃にこの手術を行いますと、鼻詰まりを起こし易いので、6歳以降に行うのが一般的です。

6. 顎変形症手術の時期

口唇口蓋裂の手術法の向上と術後の矯正歯科治療によって、口唇裂口蓋裂が原因で咬み合わせに著しい異常が生じる人は少なくなりました。しかし、成長とともに咬み合わせの程度が悪化し、歯科矯正治療のみでは改善できない場合もあります。上あごの発育が十分でなく、形の異常が著しい場合には、18歳頃に下あごや上あごの骨切り手術を行い、歯の咬み合わせと形の改善を図ります(図7-2)。